

倉敷市生物多様性地域戦略
短期的目標(2020年度)
評価シート

令和3年1月

生物多様性地域戦略評価シート

短期的目標1

生物多様性の損失を食い止め、持続的利用ができるようになっており、より豊かにする取り組みを始めている。

評価

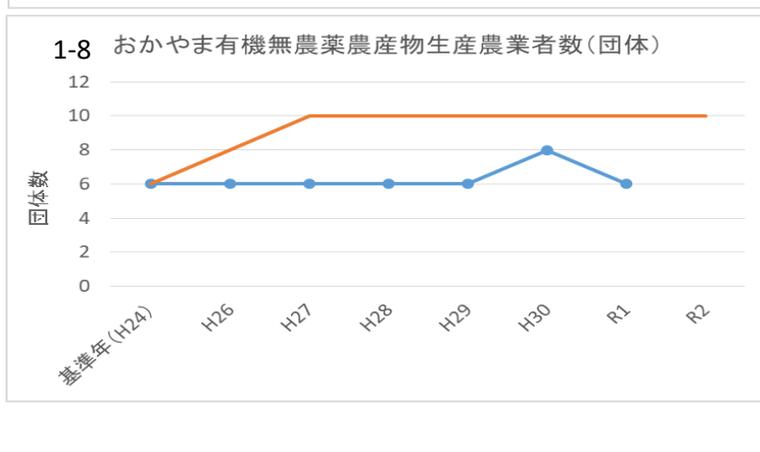
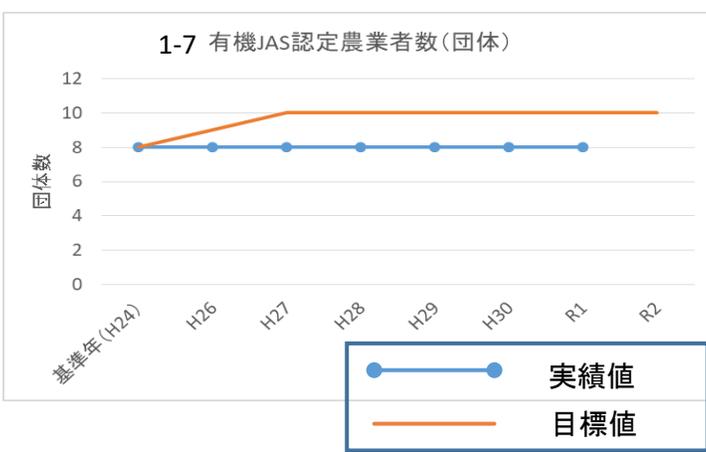
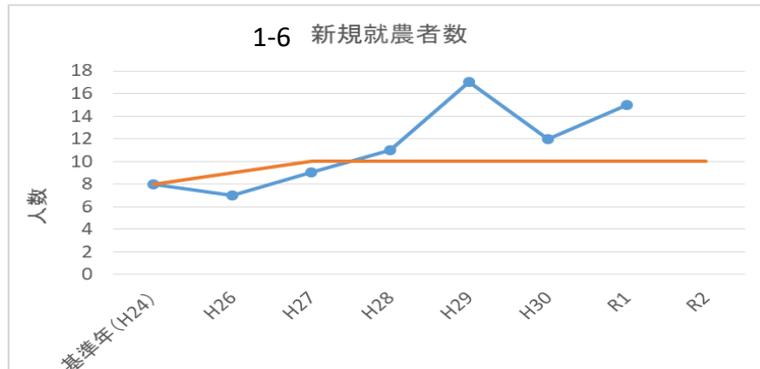
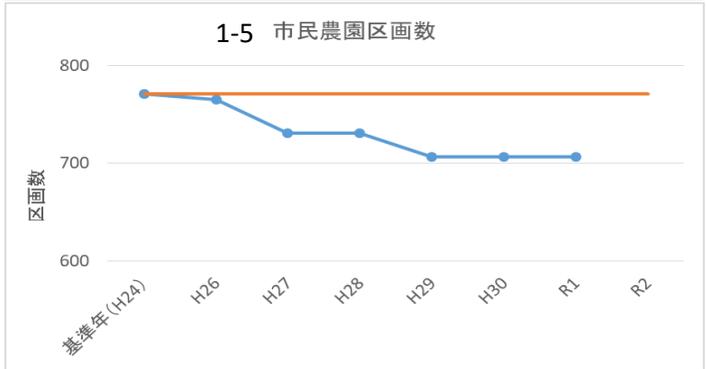
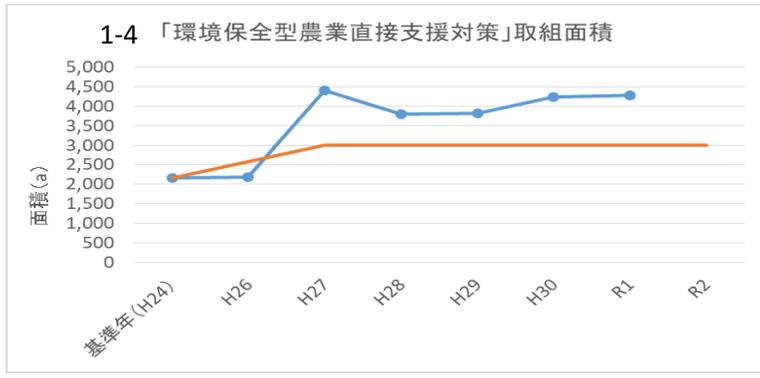
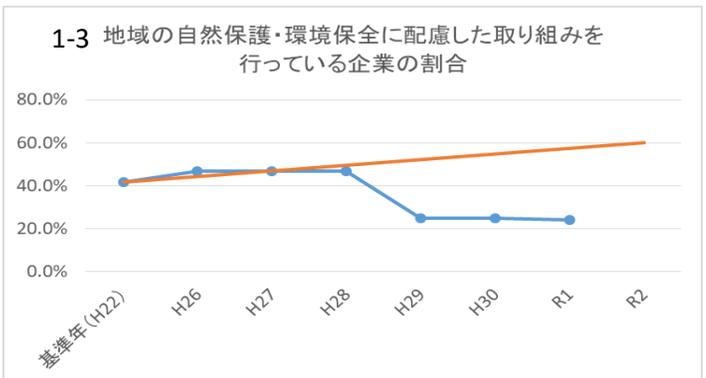
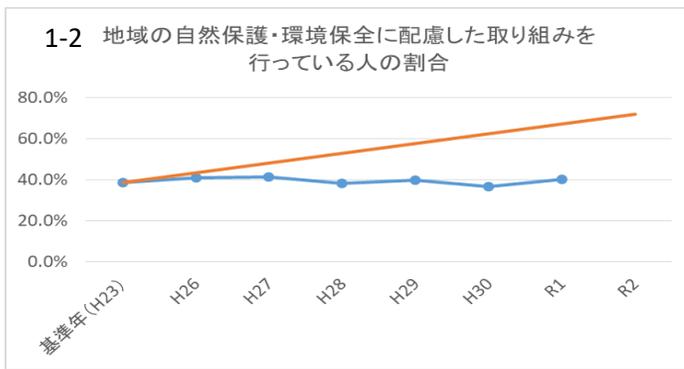
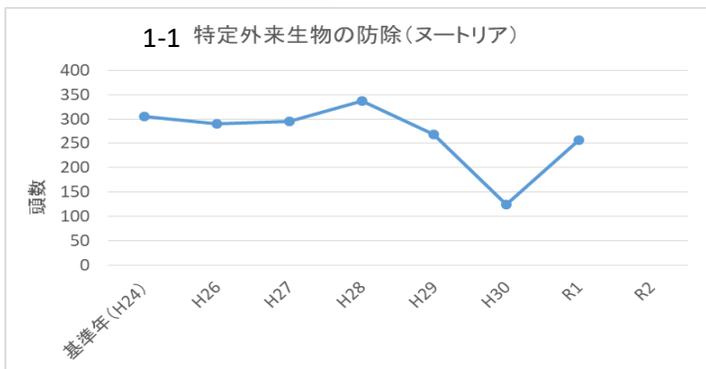
- ①生物多様性の損失を食い止めるために、土地の開発について、希少野生生物の生息地付近で開発が行われる場合、適切な指導を実施している。また、外来種への取り組みは、農業被害対策を中心に実施しており、関係機関との情報交換は行っているが、あまり進展していない状況である。
- ②持続的利用については、生物多様性の保全に向けた環境保全型農業などの取り組みは進んでいる。数値目標の1-5「市民農園区画数」については、地区別（倉敷、水島、玉島など）で募集をかけており、募集人数に満たない区域は、農園区画数を減らしている状況である。
- ③より豊かにする取り組みについては、アンケート結果において、市民・企業の自発的な取り組みについて状況の改善は認められないが、市民への出前講座などによる啓発や、協議などの場を利用して企業に対して環境対策の依頼を実施している。

数値目標

| | 基準値 | R元 | 状況 | 目標値 | |
|--|--------|---------------------|-------------------|-----------------|---|
| 1-1 特定外来生物の防除(ヌートリア) (引用元:市農林水産課) | 306頭 | 256頭 | 進展なし 又は 不十分 | 被害額の低減及び生息頭数の減少 | ① |
| 1-2 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:16歳以上) | 38.4% | 34.3% (349/869人) | 進展なし 又は 不十分 | 72% | ③ |
| 1-3 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) | 41.7% | 24.2% (32/132社) | 後退 | 60% | ③ |
| 1-4 「環境保全型農業直接支援対策」取組面積 (引用元:市農林水産課) | 2,172a | 4,289a | 達成 | 3,000a | ② |
| 1-5 市民農園区画数 (引用元:市農林水産課) | 771区画 | 707区画 | 後退 | 現状維持 | ② |
| 1-6 新規就農者数 (引用元:市農林水産課) | 8人 | 15人 | 達成 | 10人 | ② |
| 1-7 有機JAS認定農業者数(団体) (引用元:市農林水産課) | 8団体 | 8団体 | 進展なし 又は 不十分 | 10団体 | ② |
| 1-8 おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体) (引用元:市農林水産課) | 6団体 | 6団体 | 進展なし 又は 不十分 | 10団体 | ② |

| | |
|---|------------------------|
|  | : 達成 |
|  | : 進展なし又は進展があったが達成には不十分 |
|  | : 後退 |

数値目標推移グラフ



●—● 実績値
— 目標値

実施事業

| 取り組み | 事業名 | 概要 | R元実績額 (千円) | R元実績 |
|---------------------|------------------------------------|---|---|--|
| 外来生物対策 | 外来種等の生態系に悪影響を与える生物への対応 | アライグマなどの特定外来生物について防除計画を作成し駆除等の対策を実施する | — | 先行自治体の情報収集を進め、防除計画の策定を検討した |
| | | ペットや野生動物とのつきあい方等の市民啓発の実施をする | — | 出前講座等の機会を利用し、啓発活動を行った |
| | | ヌートリアやカワウなどについて、苦情や捕獲などの情報をもとに獣害分布図を作成し、関係部署との情報の共有を図る | — | 関係機関の情報共有を進め、分布の把握に努めた |
| | 外来生物に関する啓発と情報提供 | 外来生物の移入などによる生態系への影響を最小限とするため、環境省など関係機関と連携し、外来生物に関する情報提供や正しい知識の普及啓発を行う | — | 市民からの問い合わせに対し、関係機関と連携して対応した。 市内に生息するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除啓発を広報くらしきなどで行った |
| | | | 0 | 出前講座、観察会、博物館講座などで機会あるごとに問題の普及啓発に努めた(出前講座11回、自然観察会16回、博物館講座5回) |
| | | | 7,744 | 施設見学受入・出前講座等の機会を利用し、外来生物に関する啓発活動を行った |
| 外来生物への対策の計画策定と防除の実施 | 必要に応じ、防除計画の策定、防除実施を進める | — | これまで収集した情報及び調査結果を踏まえ、防除対策について検討した | |
| 環境配慮型農業と地産地消の推進 | 生物多様性に配慮した農業の推進 | 冬水田んぼ、休耕田の利活用による田んぼづくりを推進する | 53 | 要望がなかったため未実施 |
| | | 農地を活用した環境学習を推進する | 3,431 | 環境保全型農業直接支援対策等を通じ環境配慮型農業を推進することにより、農業者が実施する環境学習を支援した |
| | | — | 夏休み講座として、「田んぼの生きもの調べ」を実施・8月18日(日)実施 32人参加 | |
| | | 生物多様性と安全に配慮した農林水産物のPR、地産地消及び旬産旬消の推進をする | 1,322 | 地場農産物や特産物の消費拡大を図る各種イベントや啓発講座の開催、PR活動などを行った |
| | 生物多様性(環境)保全型農業のPR、農業者や消費者の理解の促進を図る | — | パンフレットの配布等を通じ環境保全型農業の普及促進を図った | |
| | 環境保全型農業の支援 | おかやま有機JASなどの有機農業や冬期湛水管理など生き物を育む環境保全効果の高い営農活動を支援する | 3,484 | 環境保全型農業直接支援対策により環境保全効果の高い営農活動を支援した |
| 生物多様 | 生物多様性に配慮した事業の実施 | 生物多様性に配慮した開発事業の実施のための指導を行う | — | 生物多様性に配慮した開発事業の実施のための指導を行った(5件) |
| | | まとまりのある緑地等を開発事業や都市づくりに取り入れ、生き物の生育・生息環境に貢献する | — | 該当事業がなかったため未実施 |
| | | 自然環境や生態系に配慮した技術開発・施工方法による生物多様性保全への取り組みを推進する | — | 工事個所の自然環境や生態系に配慮した対応を検討した |
| | | 産業界に係る職員や企業を対象とした研修を行い、企業活動や商品、サービスが生態系に依存していることを意識し、環境に配慮した活動を推進する | — | 出前講座等を通じて、サービスが生態系に依存していることを意識し、環境に配慮した活動を推進した |
| | | 生物多様性に欠かせない水と命の係わりについて意識し、下水道の整備等により、生態系の回復を図る | 6,577,040 | 下水道の整備、改築更新及び普及促進を実施した |

③

③

①

| | | | | |
|-----------------------|------------------------|--|-------|--|
| 性に配慮した地域開発と産業、事業活動の推進 | くらしき地域資源の活用 | 地域資源を、老舗、特産品、魅どころとして取りまとめ、情報発信をする | 8,200 | くらしき地域資源を取りまとめ、ホームページやBOOK等を通じて情報提供を行った |
| | 市民参画による生物多様性に配慮した公園づくり | 市民参画による生物多様性に配慮した公園づくりを推進する | — | 市民の意見をとりいれた公園づくりを推進した |
| | 小田川付替え事業との連携 | 高梁川小田川付替え事業及び関連する事業について国、県と連携を図り、生物多様性の保全を推進する | — | 高梁川小田川付替え事業及び関連する事業について事業の進捗にあわせ必要に応じ国、県と連携を図り、生物多様性の保全を推進した |
| | 八間川緑道公園整備 | 地元住民、関係機関等との協議の検討 | — | 八間川東側に緑地を整備した |
| | 土石採取の掌握・指導 | 土石採取の掌握・指導の実施 | — | 土石採取の掌握・指導を行った |
| | 土砂等による土地の埋め立て許可 | 土砂等による土地の埋め立て許可の実施 | — | 土砂等による土地の埋め立て許可を行った |
| | 宅地造成許可 | 宅地造成に係る許可の実施 | — | 宅地造成に係る許可を行った |
| | 開発行為等の規制及び指導 | 開発行為等の規制及び指導の実施 | — | 開発行為等の規制及び指導を行った |
| | 開発行為等の事前協議 | 事業内容により自然環境調査を行い自然の回復に努めるよう指導 | — | 希少野生生物等への影響が考えられる5件について保全対策を指導した |
| | 保健保安林管理事業 | 三百山・大向山保健保安林管理委託 | 3,409 | 業者に管理委託して施設を保全した |

外部データ

「岡山県版レッドデータブック」選定種の集計

| 分類 | 動物 | | | | | | | 植物 | | 計 |
|------|---------|---------|-------|---------|---------|----------|-------------|---------|-------|-----------|
| | 哺乳類 | 鳥類 | 爬虫類 | 両生類 | 汽水・淡水魚類 | 昆虫類 | 昆虫類以外の無脊椎動物 | 維管束植物 | コケ植物 | |
| 2009 | | | | | | | | | | |
| 岡山県 | 21 | 88 | 6 | 14 | 43 | 172 | 302 | 556 | 48 | 1250 |
| 倉敷市 | 21(非21) | 67(非11) | 6(非6) | 14(非14) | 43(非43) | 67(非8) | 273(非270) | 138(非8) | 6(非6) | 635(非387) |
| 2020 | | | | | | | | | | |
| 岡山県 | 26 | 89 | 7 | 16 | 48 | 265 | 412 | 574 | 48 | 1485 |
| 倉敷市 | 8 | 69 | 4 | 8 | 23 | 128(非20) | 168 | 141(非4) | 9(非9) | 558(非33) |

倉敷市：倉敷市内で確認された種

非：岡山県内に生息するが、極めて少なく、市町村の特定だけでも生息地が限定され、採集のおそれが高い、あるいは、十分な情報が得られていないとして、生息地情報が非公開とされている種

※2009年度版レッドデータブックでは、生息地が非公開となっていた387種についても、倉敷市に生息している可能性があるとして計上(合計635種)していた。2020年度版では、倉敷市立自然史博物館の協力により生息地情報を整理し、非公開が33種になり、倉敷市内で確認されている種数としては、248種(2009年度版)から525種(2020年度版)となった。

生物多様性地域戦略評価シート

短期的目標2

生物多様性保全に係る総合的・計画的な施策体系が確立されている。

評価

- ・生物多様性地域戦略を平成26年3月に策定し、毎年進捗管理を行い、生物多様性の普及と推進を進めている。
- ・短期的目標(2020)の評価を行うとともに、次期短期的目標の見直しを計画的に進めている。

数値目標

| | 基準値 | R元 | 状況 | 目標値 |
|--------|-----|----|----|-----|
| (該当なし) | | | | |

数値目標推移グラフ

(該当なし)

実施事業

| 取り組み | 事業名 | 概要 | R元実績額 (千円) | R元実績 |
|-----------------|---------------|---|---------------|--------------------------------------|
| 総合的・計画的な保全体制の拡充 | 生物多様性の保全体系の拡充 | 総合的・計画的な保全体系を拡充する | — | 事業化に向けた検討を行った |
| | | 生態系の現状を踏まえた土地利用の推進、および開発における環境配慮の拡充等による、自然生態系、人と自然のふれあいに係る生態系、市街地の都市公園・緑地等の生態系を保全する | — | 国が進める環境保全型農業直接支援対策等の普及を進めた |
| | | 環境影響評価制度の活用を図る | — | 法、条例に係る事業については、環境保護及び環境保全措置を積極的に要望した |

外部データ

(該当なし)

生物多様性地域戦略評価シート

短期的目標3

市域の生態系を構成する森・山、河川・水辺、海域・海辺・海岸などの自然生態系、里地・里山、農用地、ため池などの人と自然のふれあいに係る生態系、および市街地の都市公園・緑地等の生態系が保持されるようになっている。

評価

- ①自然生態系については、徐々に減少している傾向にある。
 ②人と自然のふれあいに係る生態系については、アンケート結果からは、明確な改善が進んでいないが、市民に対して各種啓発を実施し、生態系保持の必要性を説明している。また、人と自然のふれあいに係る生態系である田や畑については、面積が徐々に減少している。
 ③市街地での生態系の保全につながる下水道などのインフラ整備や温暖化対策については、計画に基づき、施策が実施できている。また、生物多様性の考え方を公共工事に取り入れるため、関連部署の土木技術職員に対して、年1回の研修を実施している。

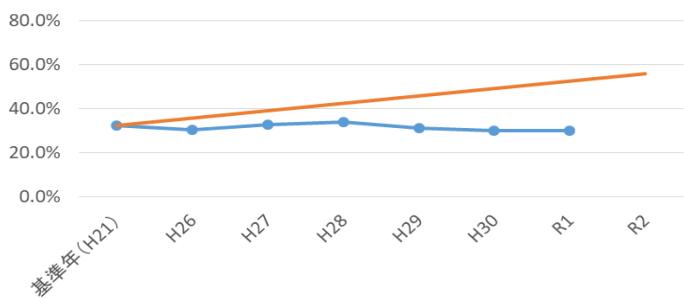
数値目標

| | 基準値 | R元 | 状況 | 目標値 | |
|--|----------|---------------------|-------------------|----------|--------|
| 3-1 多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じている人の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:16歳以上) | 32.5% | 29.3% (255/869人) | 進展なし 又は 不十分 | 56% | ② |
| 3-2 自然環境に配慮したまちづくりができていると思う人の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:16歳以上) | 27.4% | 34.3% (298/869人) | 進展なし 又は 不十分 | 54% | ③ |
| 3-3 都市公園の目標水準 (引用元:市公園緑地課) | 7.79㎡/1人 | 8.10㎡/1人 | 進展なし 又は 不十分 | 10㎡/1人 | ③ |
| 3-4 市内で下水道を利用できる人の割合 (引用元:市下水道経営計画課) | 71% | 80.6% | 達成 | 77.0% | ③ |
| 3-5 合流式下水道を改善した面積の割合 (引用元:市下水道経営計画課) | 22% | 100% | 達成 | 100% | ③ |
| 3-6 温室効果ガス排出量の抑制(市内全域) (引用元:市地球温暖化対策室) | 3,957万トン | 3,244万トン (H28) | 達成 | 3,482万トン | ③ |
| 3-7 親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:16歳以上) | 58.4% | 57.3% (498/869人) | 進展なし 又は 不十分 | 77% | ② ③ |
| 3-8 身近な自然を守る活動を行っている人の割合 (引用元:倉敷市第二次環境基本計画指標アンケート) (アンケート対象:16歳以上) | 10.9% | 8.2% (73/887人) | 進展なし 又は 不十分 | 20% | ② |

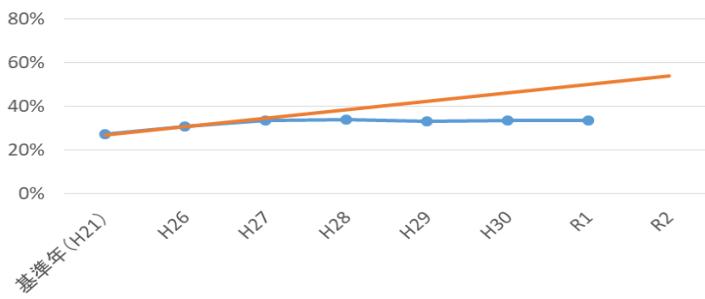
| | |
|---|------------------------|
|  | : 達成 |
|  | : 進展なし又は進展があったが達成には不十分 |
|  | : 後退 |

数値目標推移グラフ

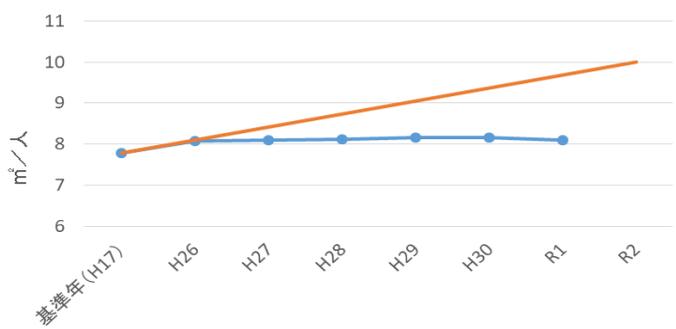
3-1 多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じている人の割合



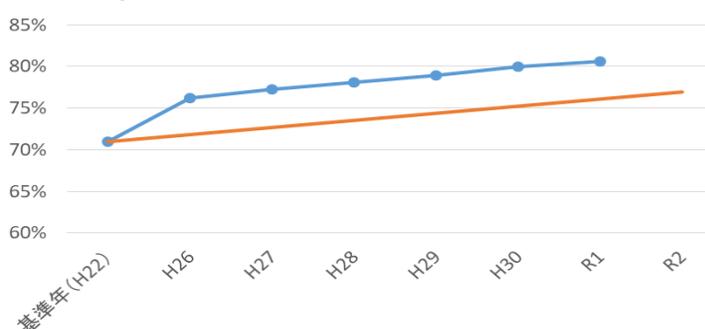
3-2 自然環境に配慮したまちづくりができていると思う人の割合



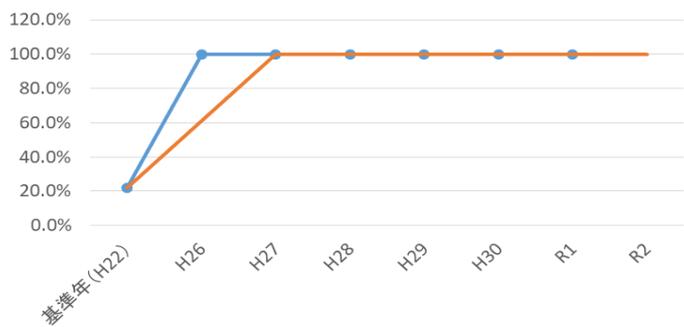
3-3 都市公園の目標水準



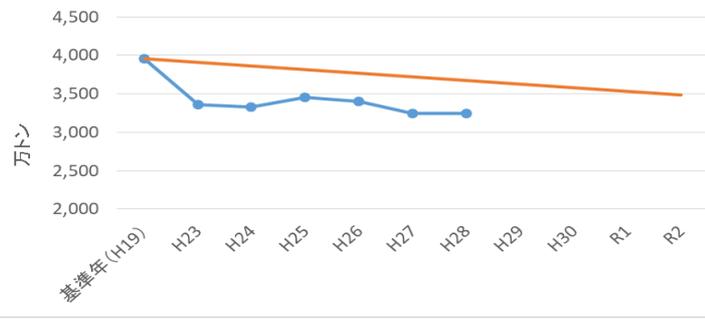
3-4 市内で下水道を利用できる人の割合



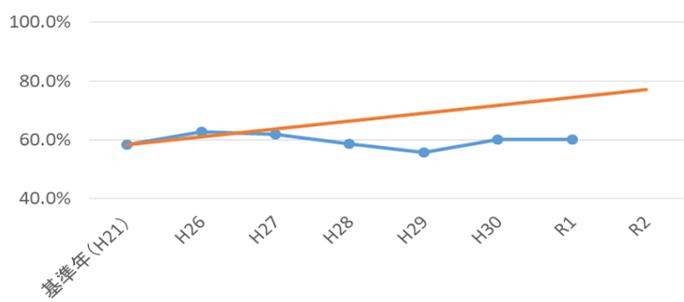
3-5 合流式下水道を改善した面積の割合



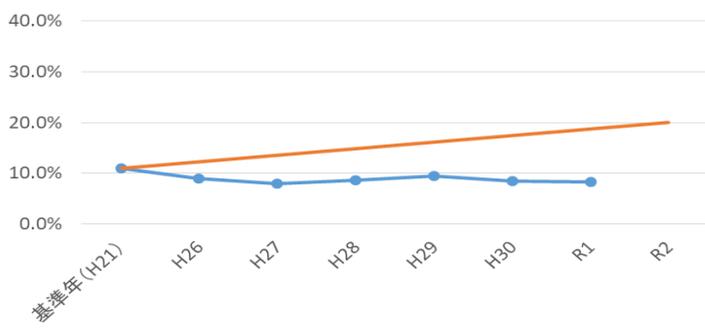
3-6 温室効果ガス排出量の抑制(市内全域)



3-7 親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合



3-8 身近な自然を守る活動を行っている人の割合



●—● 実績値
— 目標値

実施事業

| 取り組み | 事業名 | 概要 | R元実績額 (千円) | R元実績 |
|----------------------|---|--|-----------------------------|--|
| 地域の自然と生態系ネットワークの保全 | 循環的活用の推進 | 豊かな生態系を循環的に活用するため、上流域も含め、市民活動団体との協働により森林保全の実施を支援・推進する | — | 高梁川流域における市民活動団体の活動について、広報等通じて支援した |
| | 屋上緑化、壁面緑化の推進 | マンションや戸建住宅、工場等にある緑地において、特定外来生物等の他の植生に悪影響をもたらす植物の除去や、植栽等の景観も含めた保全が行えるよう方針を作成する | — | 屋上緑化、壁面緑化の方針について先行事例等情報収集を行った |
| | 公園・緑地整備計画の推進及び支援 | 生物多様性に配慮した公園・緑地整備計画の支援を推進し、民間開発事業に伴う緑化の支援及び指導を行う | — | 法・条例に基づき、緑の保全が図られるよう規制・指導した |
| | 自然に配慮した景観保全 | 豊かな自然と良好な景観を保全するため、条例に従い、規制・指導を行う | — | 法・条例に基づき、緑の保全が図られるよう規制・指導した |
| | | | — | 本市固有の豊かな自然を生かした都市景観の形成が図られるよう指導した |
| | 各種団体との連携推進 | 生物多様性の保全について、NPO法人や地域団体等の各種団体と調整を図るとともに、地域連携保全活動計画策定の検討を図る | — | 各団体の実態把握及び地域連携保全活動計画の導入可能性について検討した |
| | 市以外の公共事業における環境保全措置 | 国や岡山県などが、本市において実施する公共事業に対して、必要な協力を行いつつ、重要地域での事業実施回避も含め、当該地域での生物多様性への影響を最小限に抑えることを求め、また、必要に応じ、十分な代償措置を求める | — | 必要に応じ、事業による生物多様性への影響を最小限に抑えることを求め、また、必要に応じ、十分な代償措置を求めた |
| | ビオトープの設置促進 | 小学校、公共施設等へのビオトープの設置を手助けする | 0 | 設置に関する相談などなし |
| | 「倉敷美しい森」管理事業 | 地元へ管理委託 | 2,498 | 地元へ管理委託して施設を保全した |
| | 「真備美しい森」管理事業 | 地元へ管理委託 | 5,608 | 地元へ管理委託して施設を保全した |
| | 「ふれあいの森」管理事業 | 地元へ管理委託 | 2,724 | 地元へ管理委託して施設を保全した |
| | 種松山野草園管理 | 野草園の管理 | 484 | 移植植物の維持管理(草刈り、東屋修繕)を行った |
| | 「愛宕山森林公園」管理事業 | 愛宕神社を中心に広がる緑豊かな森林公園の草刈りやトイレ清掃などを管理委託により保全する | 3,396 | 公園内の草刈、トイレ清掃等を管理委託により保全した |
| | 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施 | 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理を行う | — | 希少種の生息状況など自然環境保全に係る情報を収集し、事業部署に情報を提供、手助けすることにより、生物に配慮した施工、維持管理に反映させた |
| | | | 8,019 | 東三間川用水路改修工事 ほか1件 |
| 1,963 719 | | | 西部排水路藻刈業務委託 福田用水路清掃業務委託 | |
| 36,484 | | | 藤戸地内水路改修工事 ほか5件 | |
| 溜川公園水辺ゾーン及び現況ヨシ原維持管理 | 地域団体・NPOの協力のもと、水辺ゾーン及び現況ヨシ原の維持管理及び保全を行う | 489 | 地域団体・NPOの協力のもと、維持管理及び保全を行った | |

| | | | | |
|----------------|---|---|---|---|
| | 阿津遊水池環境保全事業 | 遊水池の環境整備(測量、設計委託、整備) | 0 | 遊水地整備を行った |
| | 自然保護団体の湿地復元、保護活動への支援 | 湿地復元や保護を行う自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する | — | 自然保護団体の活動に対して技術情報提供などにより支援した |
| | 街区公園の整備 | 街区公園の整備 | 45,000 98,274 | 用地取得 整備工事 |
| | 本庁壁泉池維持管理 | ビオトープとして整備した壁泉池の維持管理を行う | 0 | 維持管理を行った |
| | 造林事業 | 森林資源の培養と自然環境の保全を図るため、苗木相当額を補助し植林を推進する | 0 | 要望がなかったため未実施 |
| | 松くい虫予防事業 | 松くい虫被害対策のため、薬剤散布による予防と被害木の伐採駆除 | 8,943 | 松くい虫予防事業、松くい虫被害木伐倒事業を行った |
| 地域ごとの自然環境の保全 | 【森・山】倉敷地域の取り組み | 酒津八幡山周辺を、山と河が一体となった緑豊かな景観と、多様な生態系が残る自然の宝庫として保全する | — | 市民団体との協働により、保全及び利活用について調査・検討を進めた |
| | 【森・山】水島地域の取り組み | 大平山、種松山、鴨ヶ辻山などの山系の自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る | 484 | 開発指導を通じ、自然環境を保全するとともに、市が設置した探鳥コース、野草園など自然とふれあえる場の活用を図った |
| | 【森・山】児島地域の取り組み | 由加山系の貴重な動植物を保護するとともに、山系全体を保全する | 0 | 市民団体等との協働により、保全及び自然とふれあえる場の活用を図った |
| | 【河川・水辺】水島地域の取り組み | 八間川を、市民が憩える水辺空間として整備を推進する | 250 | 花苗5000株を年3回植栽した |
| | 【河川・水辺】玉島地域の取り組み | 溜川遊水池周辺の自然生態環境を保全・活用するとともに、市民が自然とふれあえる公園として溜川公園を維持管理する | 489 | 自然生態環境に配慮し維持管理を行った |
| | 【河川・水辺】船穂・真備地域の取り組み | 川辺ふるさとビオトープや真備水辺の楽校、希少生物の理解や水生生物とのふれあいの場として活用を図る | — | 身近な自然とふれあえる場として維持管理を進めた |
| | | 清流に恵まれた高梁川、小田川とその周辺の自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る | — | 国、県の整備事業等において、自然環境の保全を働きかけるとともに、水辺教室等を通じて自然とふれあえる場としての活用を図った |
| | 【海辺・海岸】児島地域の取り組み | 唐琴地区や、下津井地区の砂浜、干潟、磯などの自然海岸を保全し、藻場の回復を図るため、国、県へ積極的に働きかける | — | 砂浜、干潟、磯など自然海岸の保全、藻場の回復を図るため、国、県へ積極的に働きかけるとともに、海辺教室等を通じて、市民への保全意識の啓発を図った |
| | | 鷲羽山展望台周辺整備基本計画及び名勝下津井鷲羽山保存管理計画に基づき、鷲羽山の良好な自然景観を維持保全するとともに、整備活用する。 | 649 | 樹木の伐採 |
| | 【海辺・海岸】玉島地域の取り組み | 高梁川河口の干潟や、玉島黒崎地区の砂浜、干潟、磯などの自然海岸の保全を図るため国、県へ積極的に働きかける | — | 砂浜、干潟、磯など自然海岸の保全を図るため国、県への積極的な働きかけ及び市民団体の支援等を通じて、市民への保全意識の啓発を図った |
| 【市街地】倉敷地域の取り組み | 鶴形山、向山、足高山など市街地の中の身近な自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る | — | 公園、道路等適切に維持管理することにより自然環境を保全し、探鳥コース等を利用して自然とふれあえる場としての活用を図った | |
| 支援者、指導者 | 生物多様性に関する環境学習システムの推進 | 保育士や教諭等を対象とした研修を行い、子どもたちが地球に優しい取り組みを実践することにつなげる | 0 | 研修の方法・内容等の検討について教員研修を所管する教育センターに依頼 |
| | 指導者養成講座の開催 | 高梁川流域における生物多様性保全をテーマとする環境教育研修を行う | 190 | 環境学習人材育成研修を実施した。主催:みずしま財団「自然を語る」インタープリター養成講座 2月24日(月) 参加者36人。 |

| | | | | |
|-------------|--|---|---|--|
| の育成 | 自然環境保全マニュアル研修会 | 市新規採用土木職員などを対象に研修会を実施 | — | 本研修を未受講の土木職員を対象に研修会を実施した |
| | 環境保全事業、啓発活動の支援 | 里地、里山の保全に向けた自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等に努める | — | 必要に応じ、自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等を行った |
| 自然とのふれあいの促進 | 自然とのふれあい事業の開催 | 水辺教室、海辺教室、自然観察会、天体観察会、星空観察会などの自然とのふれあいを事業を開催する | 0 95 | 平成30年7月の西日本豪雨の影響により水辺教室は中止した。海辺教室は実施できた。 |
| | | | 381 | 市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催した(総数21件) 「友の会」による自然観察会等の開催を援助した(友の会主催観察会・講座総数18件) |
| | | | 0 | 季節の天体や星座の観察を行った(11回・1,029人) |
| | 自然とのふれあいの場の活用、維持管理等 | ビオトープ、探鳥コース、遊休農地の活用、種松山野草園の管理及び自然散策コースの検討などを行う | 484 | 探鳥コース、種松山野草園の維持管理を行うとともに必要に応じ自然散策コースの検討を行った |
| | | | — | 野鳥観察に関する入門講座を2回実施した |
| | | | 53 | 要望に応じて、耕作放棄地の再生を支援した |
| | | | — | ビオトープの設定、活用等を学校に呼びかけた |
| | 自然保護団体の里地、里山保全活動への支援 | 里地、里山の保全に向けた自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援する | — | 自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援した |
| | ビオトープの活用促進 | NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けする | 0 | NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けした |
| | 啓発機会の提供 | 小学校をはじめとして、市民の水辺の環境保全意識啓発に努める | 0 | 自然保護団体等と協力して、啓発活動を行った。淡水魚に関する出前講座は申し込みなし |
| | 種松山野草園管理 | 種松山野草園管理 | 484 | 種松山野草園の維持管理を行った |
| | 探鳥コース、野鳥観察地の維持、活用 | 探鳥コースや野鳥観察地の観察しやすい環境づくりと利活用 | 0 | 市民団体と協力し、野鳥観察会を2回実施した |
| | | | 39 | 探鳥コースの点検を行った |
| 市民農園事業 | 遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する | 3,885 | 市民農園維持管理を実施した | |
| 遊休農地の活用 | 幼・小・中学校において遊休農地を活用し体験学習を推進する | 0 | 小学校の第4学年又は第6学年と中学校の第1学年において遊休農地を活用し体験学習を実施した | |
| 水辺教室 | 高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 0 | ・平成30年7月の西日本豪雨による影響で実施場所が使用不能なため中止。 | |
| 海辺教室 | 磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 95 | 7月27日(土)に児島通生海岸にて実施した。(環境学習センターと市民学習センターが協働)参加者29人。 | |
| 自然史博物館の催し案内 | 市内外の学校教育施設等へ博物館の催し案内を送付する | — | 月1回、記者クラブ、学校教育施設等へ博物館のお知らせを送付・送信した 「広報くらしき」、「パワフルキッズ」、「メールマガジン」で行事案内を行った | |

| | | | |
|---|---|-------|---|
| 環境保全に関する事業の情報提供 | 環境月間行事や環境保全講演会の開催など、広報を活用し情報を提供する | 3,695 | ・環境月間行事として、環境フェスティバルを開催した ・6月1日 環境交流スクエア ・来場者 5,000人 |
| 「こどもエコクラブ」活動支援 | 広報、事務局の支援等を通じ、クラブの活動を支援する | — | 広報や環境に関する情報の提供等を行った。(伊東家の省エネ体験100回記念パネル展示) |
| 自然観察会、講座等の開催 | 自然保護団体と協力し市民参加の観察会や講座を開催する | 381 | 市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催した(総数21件) 「友の会」による自然観察会等の開催を援助した(友の会主催自然観察会10件) |
| | | — | 自然保護団体の観察会等の開催を援助した |
| 天体観望会 | 季節の天体や星座の観察を行う | 0 | 季節の天体や星座の観察を行った(11回・1,029人) |
| 全国の各団体により、決められた領域を観察し、確認できる星の数の変化を調査する市民参加の星空観察会の開催 | 確認できる星の数の変化を調査する市民参加の星空観察会(アストロクラブ) | — | H30年度から環境省の全国星空継続観察が再開したことにともない、再開した(1回・3人) |
| 自然散策路の検討 | 自然散策コースなどの検討 | 20 | 倉敷市自然保護監視員から自然保護監視員便り等により情報収集を行った |
| 「倉敷の生き物を探そう!」事業 | 生物多様性地域戦略策定のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集をする | — | H30年度事業終了 |
| 生物多様性に関する環境学習システムの検討 | 子どもたちや先生に生物多様性の活動を意識し、実践してもらう仕組みづくりを行う | — | パンフレットの授業への活用について検討した |
| | | 0 | 生物多様性地域戦略に関する子供向けパンフレットを配布した |
| ビオトープの設置および推進 | 学校・保育所等にビオトープの設置を推進及び支援する | 0 | 必要に応じ設置および管理に関する支援を行った |
| 自然とふれあうイベント等の開催 | 子どもたちや親子で参加する自然体験イベントや、自然とふれあう活動を支援する | — | 自然体験型の講座を40件実施 701人が参加した |
| | | 66 | 障がい児などを対象としたキャンプを少年自然の家で2回実施 |
| | | — | 子育てポータルサイト等を通じ、子どもたちや親子で参加する自然体験活動を支援した |
| 環境学習の充実 | 出前講座の開催 | — | 出前講座を開催した(11件) |
| | | — | 講師派遣に協力した(出前講座以外の講師派遣25件) |
| | | 0 | 自然保護団体等と協力して、淡水魚に関する出前講座を実施 (R元:申し込みなし) |

子どもたちへの環境教育の充実

| | | | |
|--------------------------|--|-------|--|
| | 公民館、図書館講座及び学校、保育園などの施設へ講師の派遣を行う | — | 講師派遣に協力した(出前講座以外の講師派遣16件) |
| | | — | 講師派遣に協力する(派遣実績なし) |
| | 環境学習講座の開催 | — | 夏休み期間を中心に小学生親子で参加できる自然体験型の学習講座を実施した(40件:701人) |
| 環境教育の推進 | 環境教育全体計画、指導計画の作成 | 0 | 全小・中学校で、環境教育全体計画、指導計画に基づき、教科や総合的な学習の時間を中心に環境教育に取り組んだ |
| 水辺教室 | 高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 0 | 平成30年7月の西日本豪雨による影響で実施場所が使用不能なため中止。 |
| 海辺教室 | 磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 95 | 7月27日(土)に児島通生海岸にて実施した。(環境学習センターと市民学習センターが協働)参加者29人。 |
| 自然教室(中学校) | 遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する | 0 | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各中学校の第1学年の参加で実施した |
| 山の学習(小学校) | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然についての知識を得る | 0 | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各小学校の第4学年または、第6学年の参加で実施した |
| 親子漁業体験学習 | 漁業体験を通して、瀬戸内の恵みを再発見する | 1,483 | 底びき網などを体験し、瀬戸内の恵みの再発見することをねらいとし、親子漁業体験学習を実施した |
| 科学講座 | 科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、サイエンス塾等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにする | 175 | 科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、科学チャレンジ教室等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにした |
| 少年自然の家主催事業 | 自然体験学習の実施 ・「由加わいわいキャンプ」(テント設営・そうめん流し) ・「夏休み子どもキャンプ」(丸太小屋生活・野外炊事) ・「家族で秋の思い出づくり」(ハイキング・芋ほり) ・「冬季子どもキャンプ」(テント生活・野外炊事) ・「早春のつどい」(よもぎ採り・餅つき) ・「さわやかデー(由加山の旅)」(そうめん流し・野外炊事) | — | 由加わいわいキャンプなど(テント設営、そうめん流し)を実施した 「由加わいわいキャンプ」(92人) 「夏休み子どもキャンプ」(50人) 「さわやかデー(由加山の旅)」(28人) 「家族で秋の思い出づくり」(74人) 「ウインターフェスティバル」(開催中止) 「冬季子どもキャンプ」(開催中止) 「自然の家大感謝祭」(750人) 「早春のつどい」(開催中止) |
| 生物多様性体験学習拠点の設置 | 自然史博物館、環境学習センターを中心に、教育施設と連携した自然基礎情報の収集や、研修ニーズの調査を行う | 0 | 倉敷みらい公園において生き物調査を実施した(15回) |
| 保全に向けた普及啓発活動 | シンポジウムや講演会、パネル掲示等による生物多様性保全に向けた普及啓発活動をする | 486 | くらしき環境フェスティバルにおいて生物多様性の保全につながるマイクロプラスチックに関する講演会を実施した |
| 関連施設等との連帯 | 文部科学省及び県教育事務所関連施設の事業に参加 | — | H28年度で事業終了 |
| | 環境省及び県環境関連部門の事業に参加 | 0 | 総合環境学習ゾーンモデル事業(環境省)へ参加し、配当物品の利用に便宜を図った(0件) |
| 「11月3日は自然史博物館まつり」の開催 | 博物館友の会の協力を得て、全館でさまざまなイベントを開催する 終日入館無料 | 641 | 第19回「11月3日は自然史博物館まつり」を開催した(来場総数5,701人) |
| 環境学習センターでの環境学習・講座等の充実を図る | 環境学習センターでの環境学習・講座等の充実を図る | 7,744 | 環境学習・講座等の充実を図った |

| | | | | |
|------------------------------|---|--|--|--|
| 市民への環境学習機会の提供 | 緑化ポスターコンクールの実 | 緑化ポスターコンクールの実施 | 149 | 緑化ポスターコンクールを実施した |
| | 自然史全般の質問・問合せなどへの対応 | 自然史全般についての質問などに、学芸員が個別に回答する | 0 | 対面・メール等に対応した(レファレンス総数976件) |
| | 自然保護小冊子の発刊等 | 自然の紹介や自然保護に関する小冊子などの発行、市民事業への協力 | 616 | 研究報告第35号を発行した |
| | | 自然の紹介や自然保護に関する小冊子などを活用した啓発を図る | 0 | 自然保護団体等と協力して、淡水魚に関する出前講座を実施する。(R元:申し込みなし) |
| | くらしき都市緑化フェアの開催 | 都市緑化フェアの開催 | 1680 | 都市緑化フェアを開催した |
| | 酒津公園さくら植樹イベントの実 | さくら植樹イベントの実施 | 251 | さくら植樹イベントを実施した |
| | 少年自然の家受入事業 | 小、中学校の山の学習などの受入れとともに、生涯学習施設としての位置づけにより幅広い年代の研修団体の受け入れを実施する | 47,141 | 自然の中で仲間と遊び、自然と親しみながら仲間と暮らすことによって、人間形成を図った(テント設営、野外炊事等) |
| | 自然環境保全に関する研修会、講演会 | 有識者を講師に研修会、講演会、サイエンス・カフェなど開催する | — | 自然環境保全に関する有識者を講師とする講座を開催した (R元:田んぼの生き物調べ) |
| | | | 662 | くらしき環境フェスティバルにおいて生物多様性の保全につながるマイクロプラスチックに関する講演会を実施した |
| | 自然保護監視員研修会・連絡会議 | 知識習得のための研修会を行う 自然保護に関する情報や意見を受けるための連絡会を開催する | 122 | 自然保護に関する情報や意見を受けるための研修会や連絡会を開催した(1回) |
| 自転車を活用した「くらしき百景」観光プロジェクト | 市民企画提案事業「自転車を活用した「くらしき百景」観光プロジェクト」の一環で、倉敷を訪れる観光客に環境に配慮した観光スタイルを学習する機会を提供する | — | H25年度事業終了 | |
| 「倉敷まちかど博物館」事業 | 平成25年度コミュニティー助成事業により、岩石・鉱物・化石・植物・昆虫・動物などの標本を、移動可能な展示ユニット計60台に仕立てて、公共性の高い施設に貸し出しする | 0 | 17施設に34台のユニットを新たに貸し出した | |
| 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援 | 生物多様性に配慮した里地・里山整備 | 里地里山の持続的管理のための社会的枠組みや活用方策等について検討し、生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援する | 3,484 | 環境保全型農業直接支援対策により生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援した |
| | | | — | 先進事例等情報収集を行った |
| | 自然共生圏を意識した地域交流、経済活動の支援 | 高梁川流域など本市が関わる自然共生圏を対象とした地域交流イベント、経済活動を支援する | — | 地域交流イベント、経済活動を支援した |
| | 河川等のゴミの清掃 | 生活雑排水路の春秋地区清掃 | 33,074 | 清掃で出た土砂・草などを直営・業者委託で回収 市内全域で実施した |
| | | 児島湖流域清掃大作戦 | 522 | 児島湖流域清掃大作戦を開催した(参加者:約2,000人) |
| 高梁川流域クリーン一斉行動の支援 | | 180 | 高梁川流域クリーン一斉行動を支援した 参加者:13,461人、収集量:29.46t | |
| 自然保護団体への活動支援 | 各種自然保護団体への活動を支援する | 180 | 補助金、情報提供などにより市内の自然保護団体の活動を支援した | |

外部データ

| 評価項目 | 地域戦略策定時(引用元) | | 現在の状況(引用元) | |
|-----------------|--|--|--|---|
| 海岸・海域(自然海岸) | 自然海岸: 28.5%(26.41km) 半自然海岸: 6.5%(5.98km) 人工海岸: 61.8%(57.35km) 河口部:3.3%(3.03km) | H6 環境省・自然環境 保全基礎調査 | 自然海岸:25.4%(26.55km) 半自然海岸:8.3%(8.71km) 人工海岸:62.8%(65.58km) 河口部:3.4%(3.55km) | H10 環境省・自然 環境保全基礎調査 (2018.08.28岡山県 水産課提供資料に よる) ① |
| 干潟面積(岡山県) | 566ha | H7年度 岡山県水産課 | 527ha | H18年度 岡山県水産課 ① |
| 海岸・海域(アマモ場:岡山県) | アマモ:1,221ha ガラモ:176ha | H19 岡山県水産課 | アマモ:1,845ha ガラモ:176ha | H27現在 岡山県水産課 ① |
| 森・山(森林面積) | 山林:16.1%(5,712ha) | H23 倉敷市統計書 | 山林15.96%(5,672ha) | H30 倉敷市統計 書 ① |
| 土地利用(田畑・住宅の割合) | 田:12.7%(4,500ha) 畑:7.2%(2,546ha) 宅地:26.5%(9,396ha) | H23 倉敷市統計書 | 田:11.6%(4,132ha) 畑:6.9%(2,453ha) 宅地:27.5%(9,769ha) | R元 倉敷市統計 書 ② |
| 土地利用(耕地面積) | 耕地面積:4,630ha、 耕作放棄地:766ha | 農林水産省農業セン サス・倉敷市農業振興 計画書、農林水産省 農業センサス・くらしき の魅力ある農業経営 | 耕地面積:4,280ha、 耕作放棄地:798ha | H27農林水産省農 業センサス ② |
| 水系(ため池) | 832か所 | H24.4.1現在 岡山県農 林水産部耕地課 | 823か所 | R元.4.1岡山県農林 水産部耕地課 ② |

生物多様性地域戦略評価シート

短期的目標4

地域の希少な生物種・生態系が保全され、その生息・存続を確かにする状態となっている。

評価

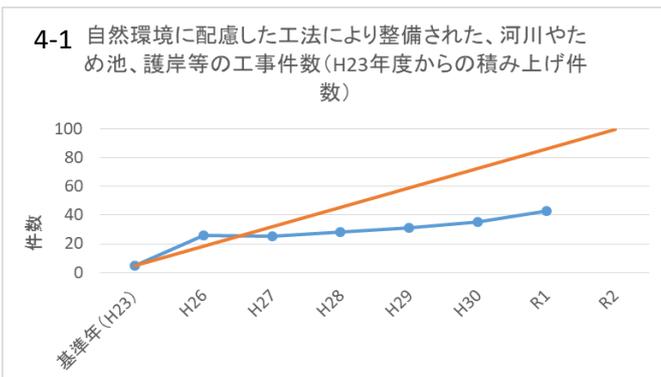
- ・公共工事については、年度ごとに希少な生物種が生息する地域での工事予定の把握とその対策に関して、関連部署と連携し、専門家のアドバイスを受けて実施している。
- ・民間工事については、開発申請に関する情報を開発指導部署と共有し、工事実施事業者に対して必要な取り組みを指導している。

数値目標

| | 基準値 | R元 | | 目標値 |
|---|-----|-----|-------------------|------|
| 4-1 自然環境に配慮した工法により整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(H23年度からの積み上げ件数) (引用元:市環境政策課) | 5件 | 43件 | 進展なし 又は 不十分 | 100件 |

| | |
|--|------------------------|
| | : 達成 |
| | : 進展なし又は進展があったが達成には不十分 |
| | : 後退 |

数値目標推移グラフ



| | |
|--|-----|
| | 実績値 |
| | 目標値 |

実施事業

| 取り組み | 事業名 | 概要 | R元実績額 (千円) | R元実績 |
|-------------------|--|---|--|---|
| 希少野生生物の生息・生育環境の保全 | 希少動植物の生息情報整備 | 希少野生動植物の生息情報マップを整備し、生態系に配慮した管理を推進する | — | 希少野生動植物の生息情報マップの構築に向け随時調査を行った |
| | 希少動植物の保全 | 各課連携により淡水魚・希少動物の積極的保全に取り組む | — | 希少野生生物の生息・生育区域においては、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努めた |
| | 海浜や干潟における希少生物の保全 | 海浜利用者に配慮し、保全が必要な海浜植物について囲いを設置するなどの保全を行う | — | 関係機関と連携して経過観察を行った。 |
| | 希少野生動植物の保全 | 早急な対策が求められる希少な動植物種について優先的に保護対策を講じ、種の絶滅を回避する | — | 生息の可能性がある地域の公共工事や開発行為で、必要に応じて配慮工事の要請や指導を実施した。 |
| | シラガブドウの保護 | アグリサポート研修センターおよび堆肥化施設敷地内に、シラガブドウの保護地を設け、保護及び啓発を行う | 0 | 保護育成(ふなおワイナリーの経費により管理を行った) |
| | ミズアオイ群生地整備事業 | ミズアオイの良好な生育環境を創造するため、自生地の整備を行う | 402 | 冬季に耕耘等により自生地の環境整備を行った |
| | ミズアオイ群生地の保全活動 | 自然保護団体、地域住民等と協力し、ミズアオイ群生地の良好な生育環境の保全に努める | 73 | ヌートリア食害防護フェンスの設置など、ミズアオイ自生地の整備・管理に協力した。市民に対して観察会等の啓発活動を行った(秋・観察会) |
| | 希少野生生物に配慮した公共工事の実施要請 | スイゲンゼニタナゴ・カワバタモロコやダルマガエルなど希少野生生物が生息・生育する場所での水路改修・街路事業などの公共工事では、専門家等との協議や地域住民の理解を求め、希少野生生物の生息・生育環境への影響が最も少ない方法を検討し、調整を図る | 521 | 希少野生生物の生息の可能性がある地域の公共工事を把握し、必要に応じて環境省や専門家と協力して、配慮工事を要請した(調査・協議・対策10回実施) |
| | 希少野生生物に配慮した公共工事の実施 | スイゲンゼニタナゴなどの希少野生生物(淡水魚)の生息・生育環境に配慮した公共工事の実施に努める | 0 | スイゲンゼニタナゴなどの希少野生生物(淡水魚)の生息・生育区域においては、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努めた |
| | | | 8,019 | 東三間川用水路改修工事 ほか1件 |
| | | | 36,484 | 藤戸地内水路改修工事 ほか5件 |
| | ダルマガエル・カスミサンショウウオなどの希少野生生物(両生類等)の生息・生育環境に配慮した公共工事の実施に努める | — | 希少野生生物(両生類等)の存在が確認された場合は、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努めた | |
| スイゲンゼニタナゴ個体群の保全 | 自然保護団体、地域住民と協力し、スイゲンゼニタナゴの保護活動を推進する | 0 | ・工事実施等に伴い、保全に関する協議・保護移動を実施した(3件) ・淡水魚の出前講座は申込なし。 | |
| 川辺ふるさとビオトープ管理 | ダルマガエル公園を含む親水公園の維持管理(委託) | 251 | 希少生物の生息する地域内で、都市公園内の池周辺清掃等維持管理を「真備川辺地区公園愛護会」へ委託し、環境保全を行なった | |
| 重要地区 | アマモ場の保全・再生事業 | アマモ場保全・再生事業を推進する | — | 市民団体等の取り組みを情報提供、広報等により支援した |
| | 生物多様性に配慮した里地・里山整備 | 里地里山の持続的管理のための社会的枠組みや利活用方策等について検討し、生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援する | 3,484 | 環境保全型農業直接支援対策などにより生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援した |
| | ため池保全計画の策定 | ため池の生物多様性保全機能に着目し、国が進める農地・水・環境保全向上対策事業の利用、推進を図る | — | ストックマネジメント事業等の推進にあわせ、必要に応じ環境保全向上対策を推進した |
| | 湿地復元、保護活動への支援 | 湿地復元や保護を行う自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する | — | 必要に応じ自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する |

| | | | | |
|-------------|------------------------------------|--|---|------------------------|
| の 保 全 | 良好な自然環境が残る区域を保全する「地区指定」の実施 | 良好な自然環境が残る地域で、まず公有地を中心に指定に向け関係者との協議を行う | — | 候補になるような地域の指定場所の検討を行った |
| | 自然公園区域、県自然環境保全地域等の区域の拡大や、新たな指定への協力 | 良好な自然環境が残る地域で、まず公有地を中心に指定に向け土地所有者及び関係市民との協議を行い、協力が得られた区域について、国、県に積極的に働きかける | — | 指定に適した地区の調査・検討を行った |

外部データ

(該当なし)

生物多様性地域戦略評価シート

短期的目標5

生物多様性に係る調査・研究により、必要な情報が整備されて広く共有されるとともに、生物多様性に係る地域評価手法を確立させる。

評価

- ①自然環境調査については、平成25年度に実施した後、実施できていないが、令和2年度以降に実施するため、準備を進めている。
- ②観察会(海辺教室など)により、市内に生息する生き物等自然状況について情報を収集している。
- ③自然保護監視員を中学校区ごとに委嘱し、自然環境状況について報告を受け、倉敷市のホームページで公開している。

数値目標

| | 基準値 | R元 | 状況 | 目標値 | |
|------------------------------|---------------|----|----|------|---|
| 5-1 自然環境基礎調査 (引用元:市環境政策課) | 1地区 (真備町妹) | 0 | 後退 | 継続実施 | ① |

- : 達成
- : 進展なし又は進展があったが達成には不十分
- : 後退

数値目標推移グラフ



実施事業

| 取り組み | 事業名 | 概要 | R元実績額 (千円) | R元実績 |
|------------|------------------------------------|---|---|---|
| 生物多様性調査の実施 | 調査体制の構築 | 市内における自然調査を継続的に実施できる体制を構築する | — | 自然観察会や出前講座等の野外活動の機会を利用して調査を実施した |
| | | | — | 事業化に向けた検討を行った |
| | 自然環境調査の実施 | 地域の自然環境に詳しい専門家(ローカルナチュラリスト)と連携した自然調査を実施する | — | 館外の研究者に必要なに応じて情報を開示し、収集資料の研究や共同研究を実施した |
| | | | — | 事業化に向けた検討を行った |
| | | 中学校・高等学校と連携した自然調査を実施する | — | 中学校・高等学校における自然観察等の実態の把握に努めた |
| | | | — | 事業化に向けた検討を行った |
| | | 市民参画による自然調査の実施、携帯クラウドシステムの活用を推進する | — | 富士通株式会社の支援を受け、携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用して市内の生き物調査を実施した(H30年度事業終了) |
| | | | — | 携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用した生き物調査に対し、種の同定等、必要に応じ支援を行った(H30年度事業終了) |
| | 本市の自然環境の特徴である水辺空間について自然環境基礎調査を実施する | — | 高砂町中島柳井原線新架橋設置に伴う河川環境調査の支援を行った(H26年度事業終了) | |
| | | — | 高砂町中島柳井原線新架橋設置に伴う河川環境調査を実施(H26年度終了) | |
| | 市内の山系の自然環境調査 | 自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、動植物を中心とした資料収集、データ整理などにより生息状況調査を行い、自然環境を把握する | 0 | 児島小川町などで、独自調査及び調査協力を行った |
| | | | 0 | 自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎ、動植物を中心とした生息状況の把握に努めた |
| | 貴重な山林の把握 | 良好な自然環境を有する山林の調査と資料の収集 | 0 | 鶴形山など、良好な自然環境を有する山林(社寺林)等の調査、資料収集・保管を随時行った |
| | 市内の里山調査 | 身近な自然である里山の実態把握に努め、保全に向けた施策の検討に繋げる | 0 | 向山など、良好な自然環境を有する里山の調査、資料収集・保管を随時行った |
| | | | 0 | 自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である里山の実態把握に努めた |
| | 市内の公園調査 | 身近な自然である公園の実態把握に努め、保全に向けた施策の検討に繋げる | 0 | 倉敷みらい公園で、「生きもの調査」を自然観察会として年4回実施し、資料収集にも努めた |
| | | | 0 | 自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である都市公園などの実態把握に努めた |
| | 市内の海岸調査 | 身近な自然である砂浜、干潟、磯などの自然海岸の実態把握に努め、保全に向けた施策の検討に繋げる | 0 | 玉島黒崎など、良好な自然環境を有する海岸の調査、資料収集・保管を随時行った |
| | | | 0 | 自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である海岸の実態把握に努めた |
| | 「倉敷川の清流化を目指す」事業 | 市民企画提案事業「倉敷川の清流化を目指す大学協働推進事業」の一環で、倉敷川の生き物・水質調査を実施する | — | H26年度事業終了 |

| | | | | |
|------------------|-----------------------------------|--|---|---|
| | 生物多様性戦略に向けた自然環境調査 | 生物多様性地域戦略策定のための基礎資料として市内の自然環境保全基礎調査を実施する | — | 自然環境基礎調査の事業化に関する検討を行った。 |
| | 「倉敷の生き物を探そう！」事業 | 生物多様性地域戦略策定のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集をする | — | H30年度事業終了 |
| 生物多様性に係る情報の整備・充実 | 地域活動を通じた生物多様性の保全 | 地域で実践している生物多様性に関する活動をより発展的に進めるため、事業の提案や助言、自然調査等の支援ができる仕組みづくりを構築する | — | 事業化に向けた検討を行った |
| | 関係部署における情報共有 | 本市が実施している自然体験フィールドやイベント、環境学習活動、環境学習施設の紹介、野生動物や自然環境に関する情報を提供する ⇒関係部署で、野生動物や自然環境に関する情報等の生物多様性に関する情報が共有されていないため、収集した情報を整理し、提供して、市民活動の推進につなげる | — | 5月22日の国連生物多様性の日、自然と親しむ月間等において、関係部署の関連情報を取りまとめ、情報提供を行った |
| | | 「倉敷市生物多様性地域戦略」に係る情報提供を推進する | — | 生物多様性地域戦略概要版を配布し、情報提供を行った |
| | 自然史博物館の施設整備 | 常設展示資料の補完的更新を行い、収蔵庫の拡張に努める | 128 | 動くナウマンゾウ親子のメンテナンスや第3、第4展示室の一部更新などを行った |
| | 特別展(特別陳列)の開催 | 岡山県内を中心として自然史全般について常設展示で盛り込めていないテーマについて、収蔵資料や外部団体の協力を生かした展示を行う | 1,368 | 特別展として「地球の元素」、特別陳列として「博物学者佐藤清明を知っていますか?」「新着資料展(昆虫)」「鳴く虫サロン」「みんなの動物ラボ」「しぜんしくらしき賞作品展」「草地功地学標本コレクション展」「新着資料展(総合)」を開催した |
| | 自然環境基礎調査及び資料の収集、保管 | 他の自然史博物館、研究機関と交流を行い、収集資料を交換し市民に資料提供を行う | 1,696 | 西日本自然史系博物館ネットワーク加盟館園や国立科学博物館自然史標本セーフティネット加盟館園などと交流を行い、市域内外にわたる自然環境について、機会あるごとに調査を進め、標本資料や文献資料の収集保管を行った |
| | 自然環境指標生物についての基礎的研究 | 自然環境指標となる生物について基礎的研究を行う | 0 | 倉敷市生物目録の補完調査ならびに動植物の分布調査、分類学的、生物地理学的研究を進め、成果を研究報告や博物館講座などで公表した |
| | 市域外での調査研究 | 市内の生物相の特徴を浮き彫りにするため、倉敷市域外での調査研究を行う | 901 | 市内の生物相の特徴を浮き彫りにするため、岡山県内の市域外(真庭市・美作市・瀬戸内市・津山市など)の自然についても調査や資料収集を行った 県外においては山口県で資料収集を行った |
| | 水辺教室 | 高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 0 | ・平成30年7月の西日本豪雨による影響で実施場所が使用不能なため中止。 |
| | 海辺教室 | 磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 95 | 7月27日(土)に児島通生海岸にて実施した。(環境学習センターと市民学習センターが協働)参加者29人。② |
| | 井戸、湧水に関する情報収集と情報提供 | 自然保護監視員や市民からの情報提供を求め、HPで情報提供を行う | — | 認定済みの井戸・湧き水について、HPで情報提供を行った |
| | 巨樹・老樹等の保護 | 自然保護監視員や市民からの情報提供を求め調査し顕彰する | 39 | 自然保護監視員や市民からの情報をもとに、巨樹・老樹等の案内板を修繕した(1件) ③ |
| | 自然海岸、海浜、干潟の調査 | 自然保護団体の協力で海岸線、海浜、干潟の現状を把握する | — | 自然史博物館友の会の行事「干潟の生き物しらべ」(倉敷市)、「釜島の自然」(倉敷市)に協力しつつその現地の調査を行う 別途、独自調査及び調査協力を行った |
| | | 0 | 市内の藻場の状況・変遷について、情報収集を行った | |
| 自然保護監視員制度の活用 | 自然保護監視員から身近な地域における自然環境の話題、情報を収集する | 122 | 連絡会議や定期的な報告書により、市内自然環境の状況、外来生物侵入の状況について情報収集を行った ③ | |

外部データ

(該当なし)

生物多様性地域戦略評価シート

短期的目標6

生物多様性保全に係る望ましい環境像と社会の関係に関する自身の考え方、すなわち「環境観」が、現状よりも多くの市民に理解される地域となっている。

評価

・アンケートによる自然に対する市民や企業の取り組みについては、状況の改善は認められないが、市民の意識啓発を目的としたイベントの充実を図ることができた。
 ・アンケート結果を基に、市民の生物多様性保全の考え方の理解度を進めるため、イベント等による啓発手法の検討を継続して実施することが必要である。

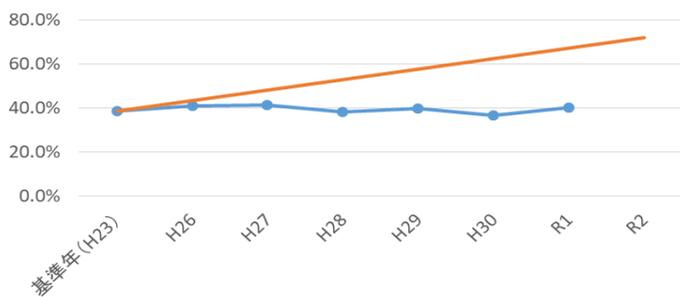
数値目標

| | 基準値 | R元 | 状況 | 目標値 |
|---|---------|---------------------|-------------------|---------|
| 6-1 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:16歳以上) 【再掲:1-2】 | 38.4% | 40.2% (349/869人) | 進展なし 又は 不十分 | 72% |
| 6-2 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート)【再掲:1-3】 | 41.7% | 24.2% (32/132社) | 後退 | 60% |
| 6-3 自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:小学校4年生~中学校2年生) | 87.6% | 84.4% (426/505人) | 進展なし 又は 不十分 | 95% |
| 6-4 自然がかけがえの無い大切なものだと感じている子供の割合 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (アンケート対象:小学校4年生~中学校2年生) | 71.7% | 78.4% (396/505人) | 進展なし 又は 不十分 | 95% |
| 6-5 自然にふれる活動に参加している子どもの数 (引用元:倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」アンケート) (計上対象:少年自然の家や倉敷市のイベントを利用した乳幼児+小中学生) | 14,537人 | 11,143人 | 後退 | 19,700人 |

| | |
|---|------------------------|
|  | : 達成 |
|  | : 進展なし又は進展があったが達成には不十分 |
|  | : 後退 |

数値目標推移グラフ

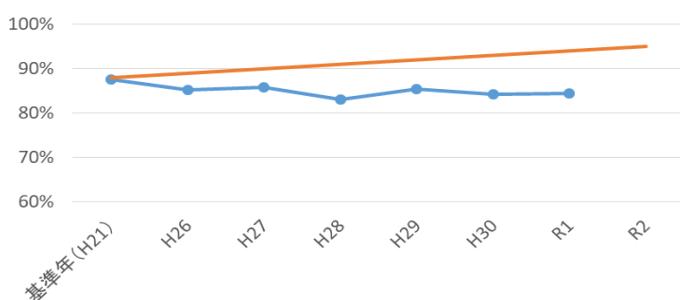
6-1 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合



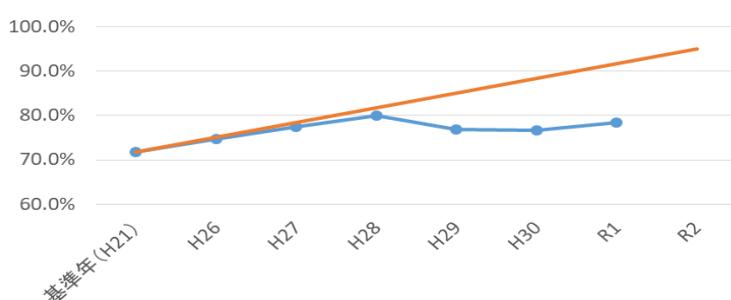
6-2 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合



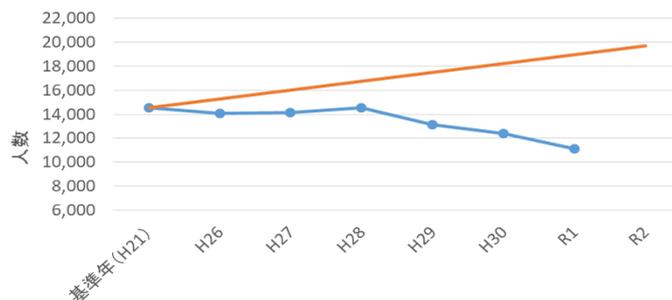
6-3 自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合



6-4 自然がかけがえの無い大切なものだと感じている子供の割合



6-5 自然にふれる活動に参加している子どもの数



実施事業

| 取り組み | 事業名 | 概要 | R元実績額 (千円) | R元実績 |
|----------------|--|---|---|--|
| 支援者、指導者の育成 | 生物多様性に関する環境学習システムの推進 | 保育士や教諭等を対象とした研修を行い、子どもたちが地球に優しい取り組みを実践することにつながる | 0 | 研修の方法・内容等の検討について教員研修を所管する教育センターに依頼 |
| | 指導者養成講座の開催 | 高梁川流域における生物多様性保全をテーマとする環境教育研修を行う | 190 | 環境学習人材育成研修を実施した。主催:みずしま財団「自然を語る」インタープリター養成講座 2月24日(月)参加者36人。 |
| | 自然環境保全マニュアル研修会 | 市新規採用土木職員などを対象に研修会を実施 | — | 本研修を未受講の土木職員を対象に研修会を実施した |
| 子どもたちへの環境教育の充実 | 生物多様性に関する環境学習システムの検討 | 子どもたちや先生に生物多様性の活動を意識し、実践してもらおう仕組みづくりを行う | — | パンフレットの授業への活用について検討した |
| | | | 0 | 生物多様性地域戦略に関する子供向けパンフレットを配布した |
| | ビオトープの設置および推進 | 学校・保育所等にビオトープの設置を推進及び支援する | 0 | 必要に応じ設置および管理に関する支援を行った |
| | 自然とふれあうイベント等の開催 | 子どもたちや親子で参加する自然体験イベントや、自然とふれあう活動を支援する | — | 自然体験型の講座を40件実施 701人が参加した |
| | | | 66 | 障がい児などを対象としたキャンプを少年自然の家で2回実施 |
| | | | — | 子育てポータルサイト等を通じ、子どもたちや親子で参加する自然体験活動を支援した |
| | 環境学習の充実 | 出前講座の開催 | — | 出前講座を開催した(11件) |
| | | | — | 講師派遣に協力した(出前講座以外の講師派遣25件) |
| | | | 0 | 自然保護団体等と協力して、淡水魚に関する出前講座を実施(R元:申し込みなし) |
| | | 公民館、図書館講座及び学校、保育園などの施設へ講師の派遣を行う | — | 講師派遣に協力した(出前講座以外の講師派遣16件) |
| | | | — | 講師派遣に協力する (派遣実績なし) |
| | | | — | 夏休み期間を中心に小学生親子で参加できる自然体験型の学習講座を実施した(40件:701人) |
| | 環境教育の推進 | 環境教育全体計画、指導計画の作成 | 0 | 全小・中学校で、環境教育全体計画、指導計画に基づき、教科や総合的な学習の時間を中心に環境教育に取り組んだ |
| | 水辺教室 | 高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 0 | ・平成30年7月の西日本豪雨による影響で実施場所が使用不能なため中止。 |
| | 海辺教室 | 磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 95 | 7月27日(土)に児島通生海岸にて実施した。(環境学習センターと市民学習センターが協働)参加者29人。 |
| 自然教室(中学校) | 遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する | 0 | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各中学校の第1学年の参加で実施した | |
| 山の学習(小学校) | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然についての知識を得る | 0 | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各小学校の第4学年または、第6学年の参加で実施した | |
| 親子漁業体験学習 | 漁業体験を通して、瀬戸内の恵みを再発見する | 1,483 | 底びき網などを体験し、瀬戸内の恵みの再発見することをねらいとし、親子漁業体験学習を実施した | |

| | | | |
|--------------------------|--|--------|--|
| 科学講座 | 科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、サイエンス塾等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにする | 175 | 科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、科学チャレンジ教室等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにした |
| 少年自然の家主催事業 | 自然体験学習の実施 ・「由加わいわいキャンプ」(テント設営・そうめん流し) ・「夏休みこどもキャンプ」(丸太小屋生活・野外炊事) ・「家族で秋の思い出づくり」(ハイキング・芋ほり) ・「冬季こどもキャンプ」(テント生活・野外炊事) ・「早春のつどい」(よもぎ採り・餅つき) ・「さわやかデー(由加山の旅)」(そうめん流し・野外炊事) | — | 由加わいわいキャンプなど(テント設営、そうめん流し)を実施した 「由加わいわいキャンプ」(92人) 「夏休みこどもキャンプ」(50人) 「さわやかデー(由加山の旅)」(28人) 「家族で秋の思い出づくり」(74人) 「ウインターフェスティバル」(開催中止) 「冬季こどもキャンプ」(開催中止) 「自然の家大感謝祭」(750人) 「早春のつどい」(開催中止) |
| 生物多様性体験学習拠点の設置 | 自然史博物館、環境学習センターを中心に、教育施設と連携した自然基礎情報の収集や、研修ニーズの調査を行う | 0 | 倉敷みらい公園において生き物調査を実施した(15回) |
| 保全に向けた普及啓発活動 | シンポジウムや講演会、パネル掲示等による生物多様性保全に向けた普及啓発活動をする | 486 | くらしき環境フェスティバルにおいて生物多様性の保全につながるマイクロプラスチックに関する講演会を実施した |
| 関連施設等との連帯 | 文部科学省及び県教育事務所関連施設の事業に参加 | — | H28年度で事業終了 |
| | 環境省及び県環境関連部門の事業に参加 | 0 | 総合環境学習ゾーンモデル事業(環境省)へ参加し、配当物品の利用に便宜を図った(0件) |
| | | 0 | 総合環境学習ゾーンモデル事業(環境省)へ参加し、配当物品の利用促進を図った |
| 「11月3日は自然史博物館まつり」の開催 | 博物館友の会の協力を得て、全館でさまざまなイベントを開催する 終日入館無料 | 641 | 第19回「11月3日は自然史博物館まつり」を開催した(来場総数5,701人) |
| 環境学習センターでの環境学習・講座等の充実を図る | 環境学習センターでの環境学習・講座等の充実を図る | 7,744 | 環境学習・講座等の充実を図った |
| 緑化ポスターコンクールの実施 | 緑化ポスターコンクールの実施 | 149 | 緑化ポスターコンクールを実施した |
| 自然史全般の質問・問合せなどへの対応 | 自然史全般についての質問などに、学芸員が個別に回答する | 0 | 対面・メール等で対応した(レファレンス総数976件) |
| 自然保護小冊子の発刊等 | 自然の紹介や自然保護に関する小冊子などの発行、市民事業への協力 | 616 | 研究報告第35号を発行した |
| | 自然の紹介や自然保護に関する小冊子などを活用した啓発を図る | 0 | 自然保護団体等と協力して、淡水魚に関する出前講座を実施する。(R元:申し込みなし) |
| くらしき都市緑化フェアの開催 | 都市緑化フェアの開催 | 1,680 | 都市緑化フェアを開催した |
| 酒津公園さくら植樹イベントの実施 | さくら植樹イベントの実施 | 251 | さくら植樹イベントを実施した |
| 少年自然の家受入事業 | 小、中学校の山の学習などの受入れとともに、生涯学習施設としての位置づけにより幅広い年代の研修団体の受け入れを実施する | 47,141 | 自然の中で仲間と遊び、自然と親しみながら仲間と暮らすことによって、人間形成を図った(テント設営、野外炊事等) |
| 自然環境保全に関する研修会、講演会 | 有識者を講師に研修会、講演会、サイエンス・カフェなど開催する | — | 自然環境保全に関する有識者を講師とする講座を開催した (R元:田んぼの生き物調べ) |
| | | 662 | くらしき環境フェスティバルにおいて生物多様性の保全につながるマイクロプラスチックに関する講演会を実施した |

市民への環境学習機会の提供

| | | | |
|--------------------------|---|---------|--|
| 自然保護監視員研修会・連絡会議 | 知識習得のための研修会を行う 自然保護に関する情報や意見を受けるための連絡会を開催する | 122 | 自然保護に関する情報や意見を受けるための研修会や連絡会を開催した(1回) |
| 自転車を活用した「くらしき百景」観光プロジェクト | 市民企画提案事業「自転車を活用した「くらしき百景」観光プロジェクト」の一環で、倉敷を訪れる観光客に環境に配慮した観光スタイルを学習する機会を提供する | — | H25年度事業終了 |
| 「倉敷まちかど博物館」事業 | 平成25年度コミュニティー助成事業により、岩石・鉱物・化石・植物・昆虫・動物などの標本を、移動可能な展示ユニット計60台に仕立てて、公共性の高い施設に貸し出しする | 0 | 17施設に34台のユニットを新たに貸し出した |
| 環境保全事業、啓発活動の支援 | 里地、里山の保全に向けた自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等に努める | — | 必要に応じ、自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等を行った |
| 自然とのふれあい事業の開催 | 水辺教室、海辺教室、自然観察会、天体観察会、星空観察会などの自然とのふれあいを事業を開催する | 0 95 | 平成30年7月の西日本豪雨の影響により水辺教室は中止した。海辺教室は実施できた。 |
| | | 381 | 市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催した(総数21件) 「友の会」による自然観察会等の開催を援助した(友の会主催観察会・講座総数18件) |
| | | 0 | 季節の天体や星座の観察を行った(11回・1,029人) |
| 自然とのふれあいの場の活用、維持管理等 | ビオトープ、探鳥コース、遊休農地の活用、種松山野草園の管理及び自然散策コースの検討などを行う | 484 | 探鳥コース、種松山野草園の維持管理を行うとともに必要に応じ自然散策コースの検討を行った |
| | | — | 野鳥観察に関する入門講座を2回実施した |
| | | 53 | 要望に応じて、耕作放棄地の再生を支援した |
| | | — | ビオトープの設定、活用等を学校に呼びかけた |
| 自然保護団体の里地、里山保全活動への支援 | 里地、里山の保全に向けた自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援する | — | 自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援した |
| ビオトープの活用促進 | NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けする | 0 | NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けした |
| 啓発機会の提供 | 小学校をはじめとして、市民の水辺の環境保全意識啓発に努める | 0 | 自然保護団体等と協力して、啓発活動を行った。淡水魚に関する出前講座は申し込みなし |
| 種松山野草園管理 | 種松山野草園管理 | 484 | 種松山野草園の維持管理を行った |
| 探鳥コース、野鳥観察地の維持、活用 | 探鳥コースや野鳥観察地の観察しやすい環境づくりと利活用 | 0 | 市民団体と協力し、野鳥観察会を2回実施した |
| | 探鳥コースや野鳥観察地の観察しやすい環境づくりと維持 | 39 | 探鳥コースの点検を行った |
| 市民農園事業 | 遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する | 3,885 | 市民農園維持管理を実施した |
| 遊休農地の活用 | 幼・小・中学校において遊休農地を活用し体験学習を推進する | 0 | 小学校の第4学年又は第6学年と中学校の第1学年において遊休農地を活用し体験学習を実施した |
| 水辺教室 | 高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 0 | ・平成30年7月の西日本豪雨による影響で実施場所が使用不能なため中止。 |
| 海辺教室 | 磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う | 95 | 7月27日(土)に児島通生海岸にて実施した。(環境学習センターと市民学習センターが協働)参加者29人。 |

自然とのふれあいの促進

| | | | |
|---|---|-------|---|
| 自然史博物館の催し案内 | 市内外の学校教育施設等へ博物館の催し案内を送付する | — | 月1回、記者クラブ、学校教育施設等へ博物館のお知らせを送付・送信した 「広報くらしき」、「パワフルキッズ」、「メールマガジン」で行事案内を行った |
| 環境保全に関する事業の情報提供 | 環境月間行事や環境保全講演会の開催など、広報を活用し情報を提供する | 3,695 | ・環境月間行事として、環境フェスティバルを開催した ・6月1日 環境交流スクエア ・来場者 5,000人 |
| 「こどもエコクラブ」活動支援 | 広報、事務局の支援等を通じ、クラブの活動を支援する | — | 広報や環境に関する情報の提供等を行った。(伊東家の省エネ体験100回記念パネル展示) |
| 自然観察会、講座等の開催 | 自然保護団体と協力し市民参加の観察会や講座を開催する | 381 | 市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催した(総数21件) 「友の会」による自然観察会等の開催を援助した(友の会主催自然観察会10件) |
| | | — | 自然保護団体の観察会等の開催を援助した |
| 天体観望会 | 季節の天体や星座の観察を行う | 0 | 季節の天体や星座の観察を行った(11回・1,029人) |
| 全国の各団体により、決められた領域を観察し、確認できる星の数の変化を調査する市民参加の星空観察会の開催 | 確認できる星の数の変化を調査する市民参加の星空観察会(アストロクラブ) | — | H30年度から環境省の全国星空継続観察が再開したことにもない、再開した(1回・3人) |
| 自然散策路の検討 | 自然散策コースなどの検討 | 20 | 倉敷市自然保護監視員から自然保護監視員便り等により情報収集を行った |
| 「倉敷の生き物を探そう！」事業 | 生物多様性地域戦略策定のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集をする | — | H30年度事業終了 |
| エコツーリズム等の推進 | 本市の進める生態系ネットワークの取り組みをはじめ、経済的に循環している市内外の優良な企業の取り組みの現場等を巡るツアーの実施及び市民団体等による実施を支援する | 528 | 高梁川流域における生物多様性エコツアーの実施を支援した(場所:酒津、参加者:66人) |
| | | — | 「茶屋町の干拓史跡・真如庵庭園の自然観察公園への改修とその活用」事業 H26年度事業終了 |
| | | — | 市民団体による提案がなく未実施 |
| エコツーリズム支援 | 市民団体の開催するエコツーリズムを支援する | 528 | 高梁川流域における生物多様性エコツアーの実施を支援した |
| 親子漁業体験学習 | 漁業体験を通して、瀬戸内の恵みを再発見する | 1,483 | 底びき網などを体験し、瀬戸内の恵みの再発見することをねらいとし、親子漁業体験学習を実施した |
| 自然教室(中学校) | 遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する | — | 自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各中学校の第1学年の参加で実施した |

外部データ

(該当なし)

短期的目標(2020年)の評価

総合的に検討するために、短期的目標ごとの評価値の平均を図に示します。値が3に近いほど評価が高く、1に近いほど遅れていることを示します。

短期的目標5で遅れがみられているため、令和2年度において自然環境基礎調査を実施し、今後も同調査などを実施する予定です。

| 短期的目標 | 数値目標 項目数 | 基準年度の数 値を下回る項 目数 | 評価 | | | 平均値 | |
|-------|--|------------------------|----|------------------------|------------|-----|------|
| | | | 達成 | 進展があつ たが達成に は不十分 | 進展なし 後退 | | |
| | | | 3 | 2 | 1 | | |
| 目標1 | 生物多様性の損失を食い止め、持続的利用ができるようになっており、より豊かにする取り組みを始めている。 | 8 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2.00 |
| 目標2 | 生物多様性保全に係る総合的・計画的な施策体系が確立されている。 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3.00 |
| 目標3 | 市域の生態系を構成する森・山、河川・水辺、海域・海辺・海岸などの自然生態系、里地・里山、農用地、ため池などの人と自然のふれあいに係る生態系、および市街地の都市公園・緑地等の生態系が保持されるようになっている。 | 8 | 2 | 3 | 5 | 0 | 2.38 |
| 目標4 | 地域の希少な生物種・生態系が保全され、その生息・存続を確実にする状態となっている。 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2.00 |
| 目標5 | 生物多様性に係る調査・研究により、必要な情報が整備されて広く共有されるとともに、生物多様性に係る地域評価手法を確立している。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1.00 |
| 目標6 | 生物多様性保全に係る望ましい環境像と社会の関係に関する自身の考え方、すなわち「環境観」が、現状よりも多くの市民に理解される地域となっている。 | 5 | 3 | 0 | 3 | 2 | 1.60 |
| | | | | | | | 2.00 |

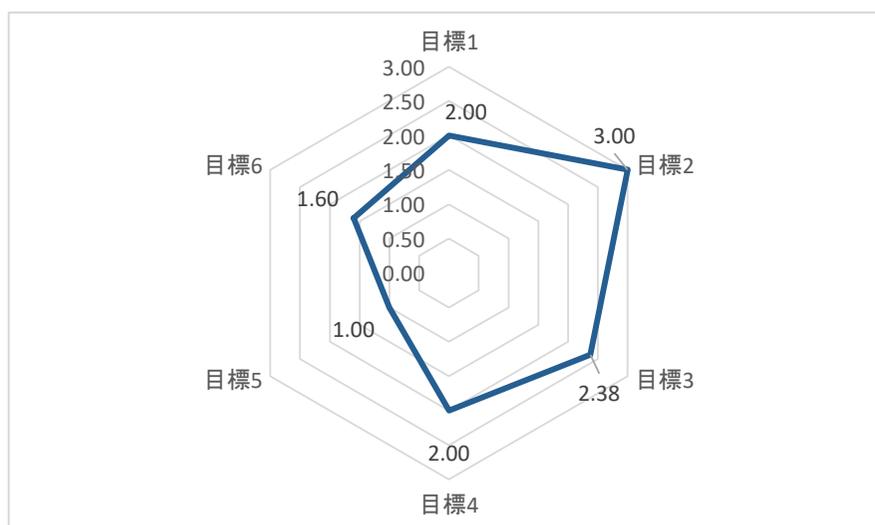


図 短期的目標ごとの評価値の平均